

水産生物生態調査*

(サンゴ礁性魚類の資源生態調査)

杉山 昭博

目的

本県ではサンゴ礁性魚類が多種類分布し、性成熟や産卵生態も多様である。そこで、世界的に広く分布し、調査用標本も充分に入手できると思われ、本県において高級魚であるヒブダイの資源生態調査を行う。

方法等

1. 調査地点：沖縄島北部の名護漁協セリ市場
2. 調査方法：
 - 1) 精密測定：定期的にヒブダイを購入して体長・体重・生殖腺重量などを測定。生殖腺はブアン氏液を用いて所定の方法で固定し、後日組織標本を作成して観察した。測定数は '92年度は23個体である。
 - 2) 市場調査：名護漁協で約10回/月の頻度で、ヒブダイや他の大型のブダイ類を漁場別、漁法別に尾叉長を測定した。雌雄で体色の異なる種については、体色別に測定した。また、雌雄の中間色のものについては、尾叉長と中間色の程度を適宜記録した。

結果

- 1) 生殖腺指数：平成4年度の標本で成熟個体は見られなかった。
- 2) 市場調査：平成4年1月～12月までの名護漁協の調査日数率は38.6%で、その時に水揚げされたヒブダイは雌（体色）4,048尾、雄（体色）54尾であった（図3）。雌の尾叉長は25～40cm台が多く、雄は43cm以上60cm台まで見られた。ほとんどの雌が刺網または矛突きで、雄は延縄や深海刺網で漁獲される（図4）。ヒブダイ尾叉長の月別変化（図5～6）では漁獲尾数は9月以降に増加し、雄は周年散発的に捕獲される。ただし、1年間を通した新規加入や群の成長はあまり明らかではなかった。

ナンヨウブダイは平成4年1月～12月にかけて2,593尾調査し、尾叉長の月別変化（図7）では20cm以下から65cm位の個体まで周年にわたって水揚げがある。ただし、漁獲サイズのバラツキは大きく、ヒブダイに比べて矛突き漁獲の比率が高いことが原因するのかもしれない。

*：国庫委託事業

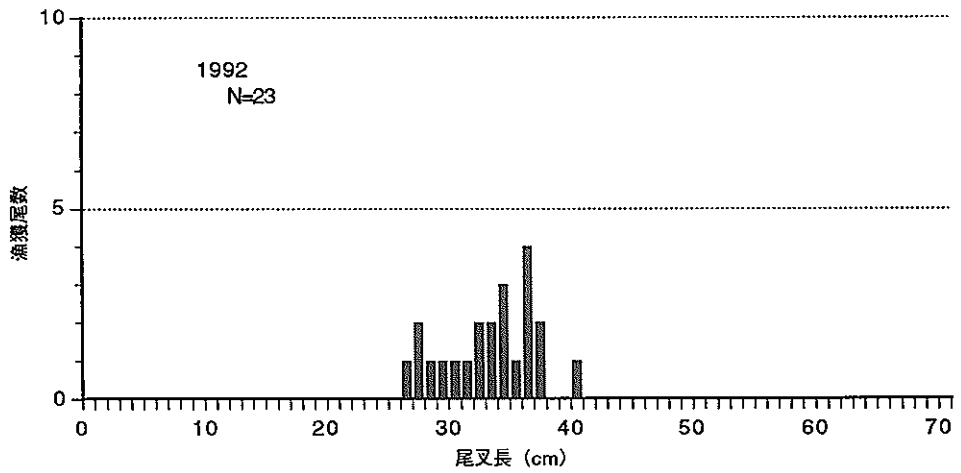


図1 精密測定に用いたヒブダイの尾叉長組成

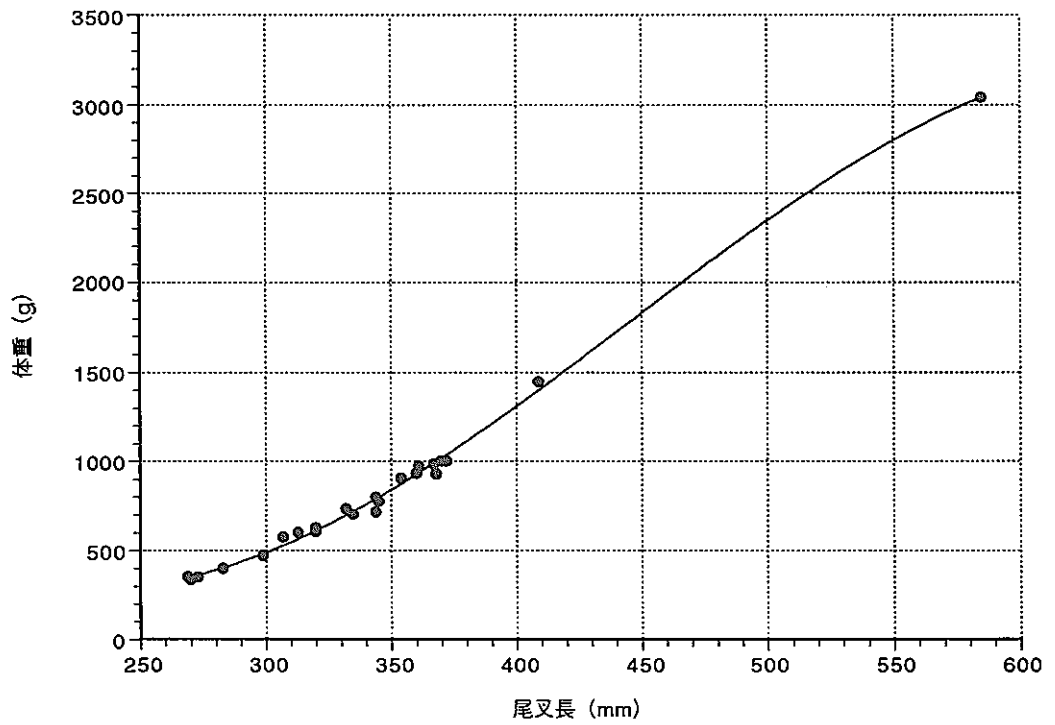


図2 精密測定に用いたヒブダイの尾叉長と体重の関係

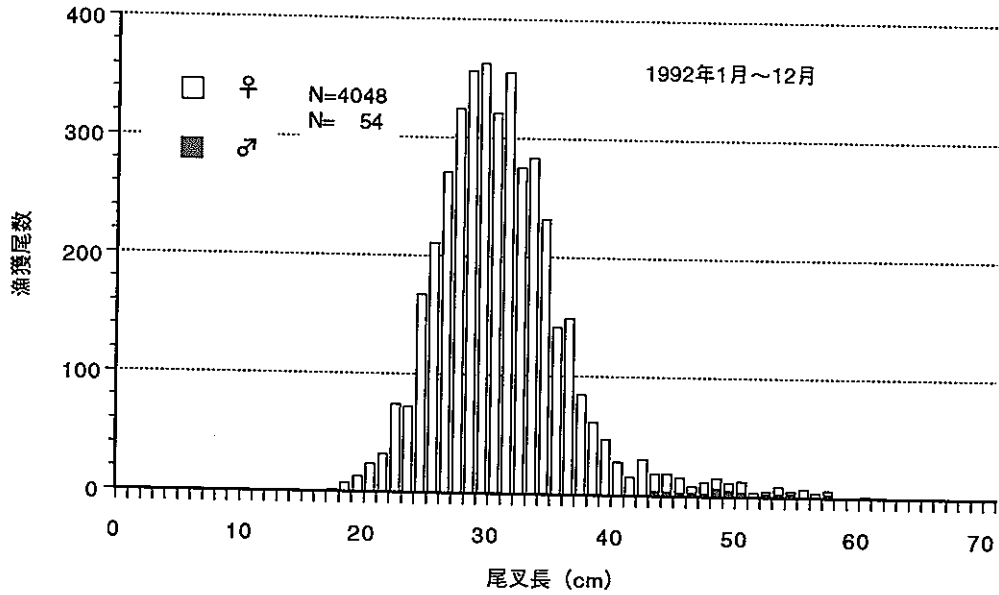


図3 市場調査でのヒブダイの尾叉長組成

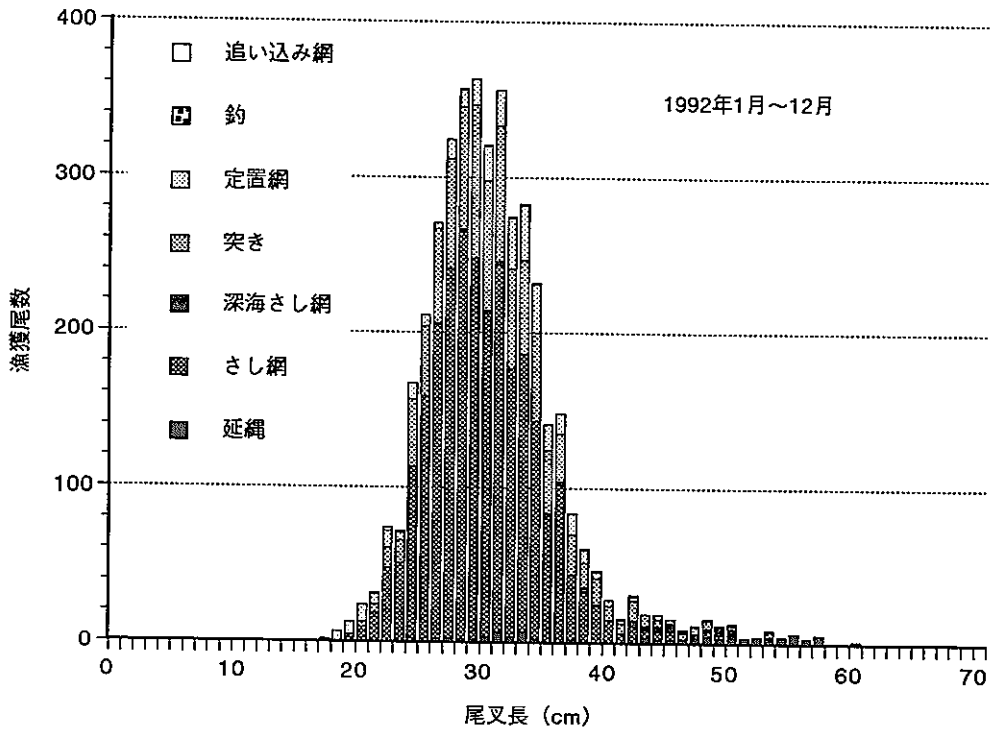


図4 市場調査でのヒブダイの尾叉長組成 (漁法別)

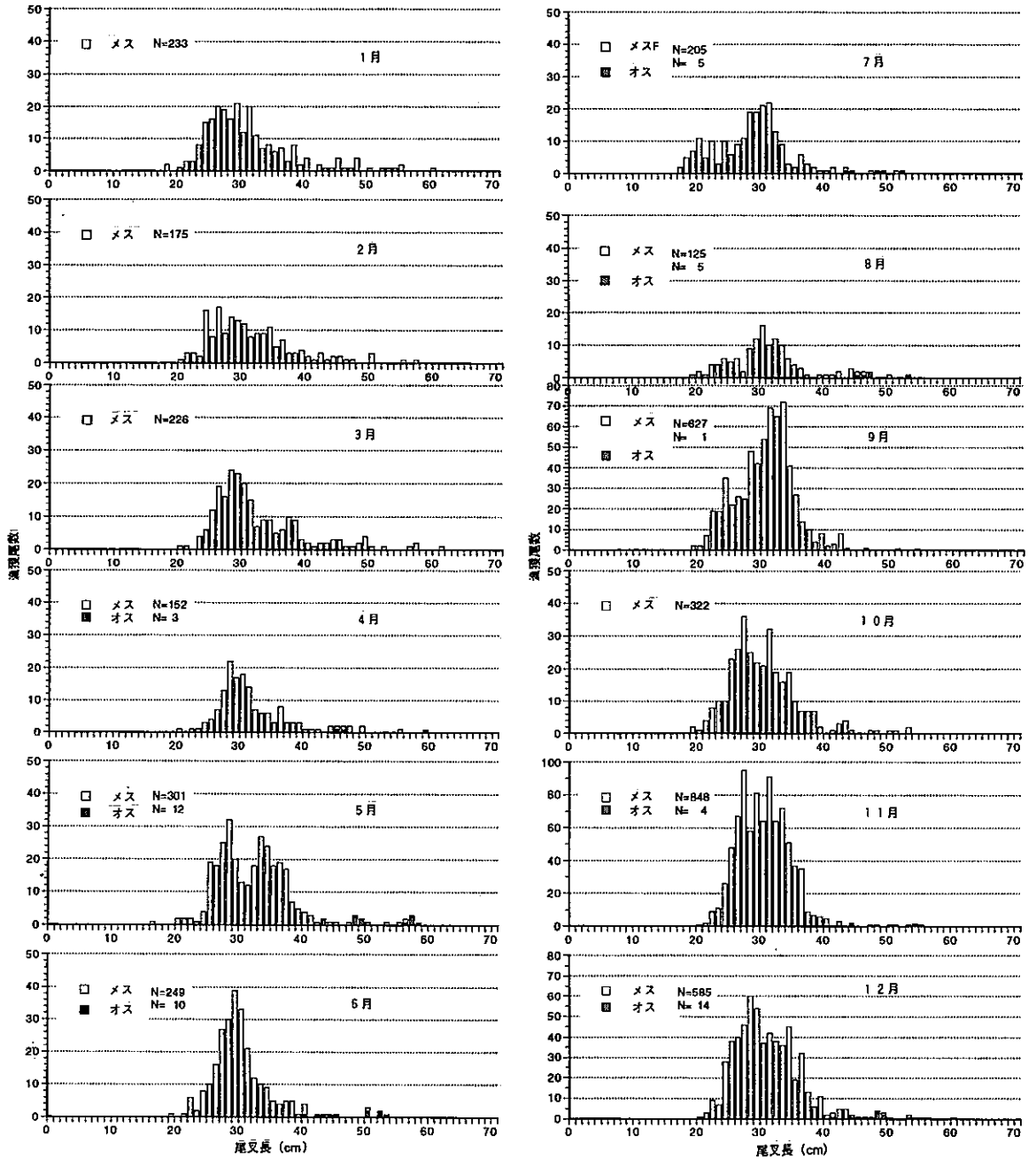


図5 ヒブダイ尾叉長組成の月別変化

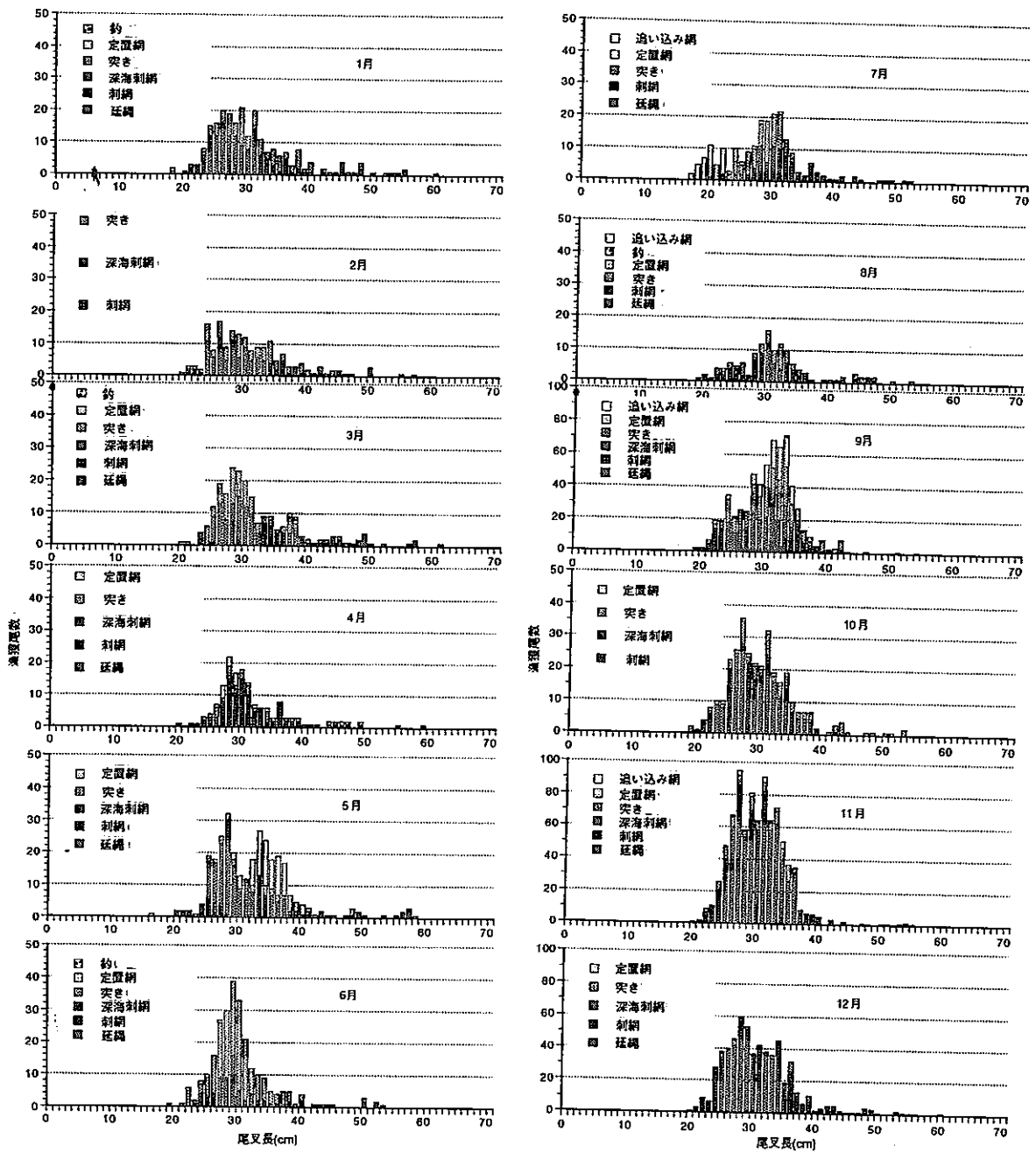


図6 ヒブダイ尾叉長組成の月別変化 (漁法別)

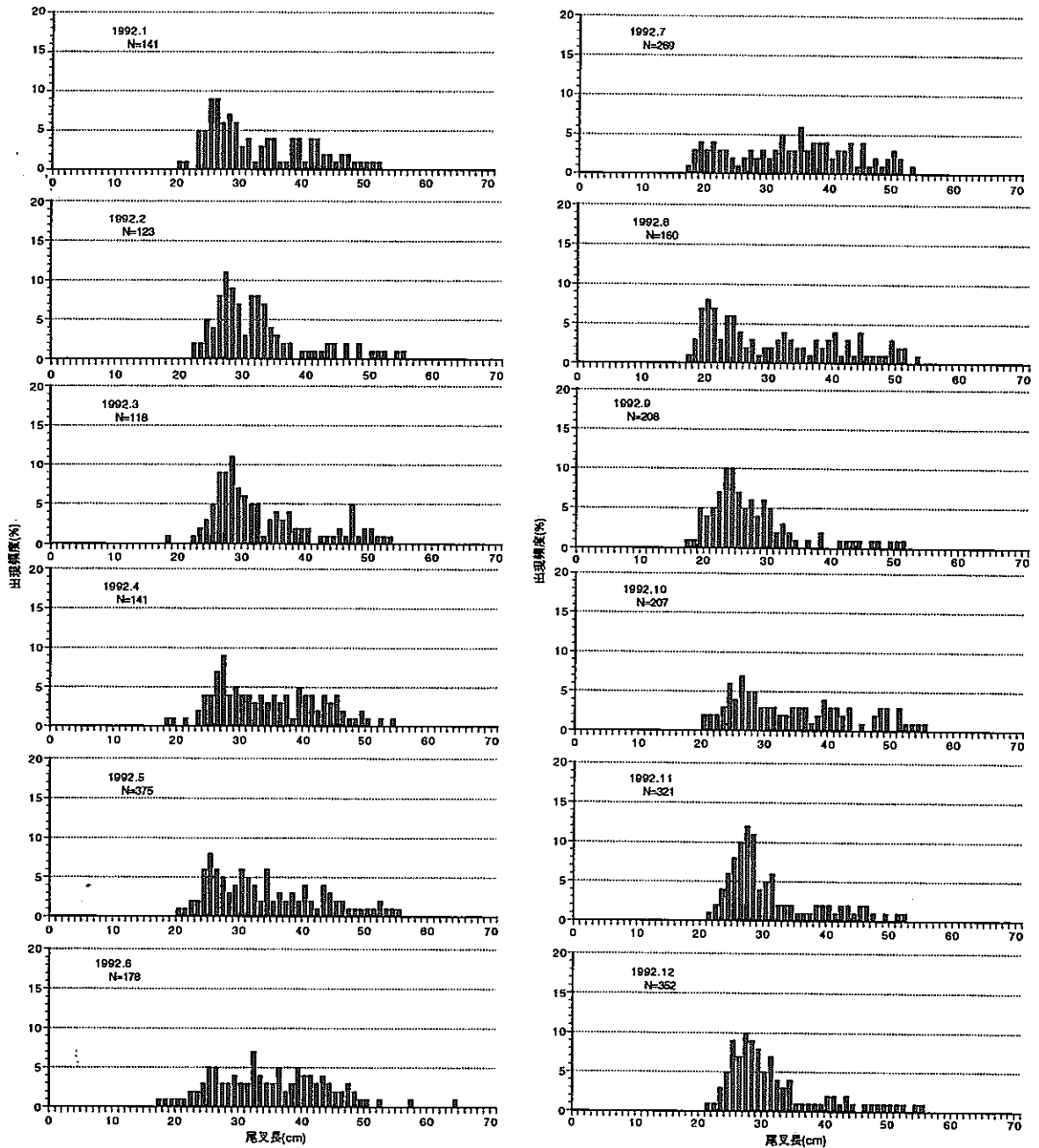


図7 ナンヨウブダイ尾叉長組成の月別変化